

生涯にわたって学び続け、その「学び」を社会の中で生かす。「学び」から「行動」へ
地域で展開される住民参加の活動やNPO活動などをとりあげます。

今号の
 視点

人と動物が幸せに共生できる手助けをしたい。人にも動物にも寄り添い活動する「認定NPO法人 人と動物の共生センター鳥取支部」。社会課題の解決に取り組む姿を取材しました。



智頭町社会福祉協議会での講演の様子

人と動物がおだやかに暮らせる社会づくり

～ 認定NPO法人 人と動物の共生センター鳥取支部（智頭町） ～

全国初の鳥取支部が誕生

智頭町の山あい「認定NPO法人 人と動物の共生センター鳥取支部」があります。人と動物がともに生きる中で起こる社会課題を解決したいと、「生きづらさを抱えた世帯へのペット飼育支援」、災害時に人とペットの命を守るための啓発活動「ペット防災」などに取り組んでいます。

本部は岐阜県。その全国初となる支部が令和5年1月に鳥取県にできました。支部長の松本温子さんと章太さんは、福岡県と大阪府の出身。認定NPO法人とは別に、ペット関連事業を行う会社を経営しています。その事業を行う中で、人と動物の共生で生じる社会課題の取組などを学びたく、岐阜で研修後、支部を設立しました。

動物と出会い社会課題を知る

温子さんは社会人になって落ち込んだことがありました。その頃、新聞に子犬を譲りますという掲示板を見つけました。「私はうちに来た犬にすごく助けられて」と温子さん。そのときに保護活動や殺処分の問題を知ります。

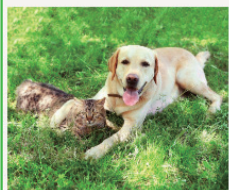
小さい頃から亀やハムスターを飼い、家族の一員として暮らしてきた章太さん。小学生のとき、学校で飼い主のいない犬が子どもを産みました。その後、乳離れした子犬のうち1匹をもらって家で飼いはじめました。これが犬との出会いです。章太さんは鳥取環境大学生だった頃、動物福祉を勉強するサークルを立ち上げて飼い主のいないペットについての啓発活動をはじめます。

※ここで記載する「動物」は「愛玩動物（ペット）」のことです。



人と動物の 共生大学

人と動物の共生大学とは？



次世代の活動者が共に学び、実践する、オンライン市民大学です。

- ・人と動物の共生に向けて何かしたいけど、何から始めたらいいかわからない
- ・高齢者でも最後まで関わる社会にしたいけど、どうしたらいいかわからない
- ・飼い主に適正飼育の方法を伝えたいけど、どう伝えたらいいかわからない
- ・ペット防災を地域で広めたい、何かヒントはないか

そんな思いを持っている方が、講師の話を聞き、仲間と交流できる！「私はこれに取り組みよう！」と感じ、始めることができます。

講座はこちら



人と動物の共生センターが運営するオンライン講座

岐阜本部で現場を学ぶ

二人でペット関連事業を行う中で、もっと動物福祉について勉強したいと思い無料のオンライン講座で『人と動物の共生大学』のチャンネルを見つけて学びました。「実際に経験を積める機会がないかと考えていたときに、有期雇用で岐阜本部の職員募集を知り、応募して半年間、現場でしっかり学んできました」と、温子さんはにっこり。



多頭飼育支援で猫のお部屋を作成（岐阜県にて）

任期が終わる頃、「支部をつくってもいいよ」と声がかかり全国初の支部ができました。

飼育状況を相談できる連携づくり

猫が2、30頭に増えて飼育が困難になる「多頭飼育崩壊」と呼ばれる例は、近年、鳥取県内でも

見られます。「増えすぎて手が付けられなくなる前に、周囲のかたが『このご家庭、そのままだったら増えそうかも?』と相談してもらえるとありがたいです。増えて崩壊する前に、不妊去勢手術を行ったり、みんなで見守ることで、そのかた自身の生活を保つことにもつながるので」と温子さん。何らかの課題を抱える世帯に関わる福祉関係者と行政やボランティアが飼育状況を相談できる連携づくりをしたいと、次のふるさと納税で、支援活動費や連携づくりのためのチラシ、相談ホットラインの設立を考えています。「私たちは飼い方がよくないからといって、飼い主とペットを引き離そうとは考えていません。むしろ一緒に生活していくうえでの困難を解決することが目的です」と温子さんは語ります。



2人おすすめの YouTube



YouTubeはこちら

『ある犬のおはなし』

～殺処分ゼロを願って～

飼い主の家にやってきた子犬。飼い主と遊び、楽しく暮らして成長していきます。そんな「ある犬」は、ある日見知らぬおじさんと出会って……? 飼い主の無責任さやペット動物の命の大切さについてうたえます。



ペットとの避難について広報

災害時にペットと避難するときの困難を解決したいと、「ペット防災」事業にも取り組みます。最近では、7月28日に鳥取市河原町の道の駅かわはらで、啓発のためのワークショップを実施。9月15日のとっとり防災フェスタでは啓発活動を行いました。また活動は、鳥取県内だけではなく中国5県に及びます。「日本ではペットを避難所の室内へ連れてはいることはまだ難しいです。日常と同じように室内で過ごさせたいと、被災した家に戻り二次災害に遭うこともあります」と温子さん。「ペットと避難することが難しい場合には、動物と一緒に泊まれるホテルの利用や、ペットだけの預け先など、様々な避難の選択肢を持っておくことが大切」



道の駅 清流茶屋かわはらでのワークショップ

と章太さんは続けます。災害に備えて日ごろから意識してもらえたら、と「ペット防災カレンダー」も配っています。

社会福祉と動物福祉の連携

温子さんによると、多頭飼育崩壊の背景には、飼い主の病気や障がい、孤立孤独、経済困窮などの生きづらさを抱えていることもあります。そのため、動物だけを助けても解決できず、社会福祉の側面から飼い主に対するアプローチも必要です。動物福祉と社会福祉に関わる人たちが連携して社会課題に取り組み、人と動物と一緒に生活する中で、必要な支援を届けることができる仕組みづくりを急いでいます。

命の問題に正面から向き合っていく

「人と動物の共生センターの理念でもある、『人（飼い主）』、『人（飼い主以外の周囲の人）』、『動物』の3者の福祉を尊重しながら事業を行っているのですが、全てがハッピーな結果に終わらないこともあります」と温子さん。「飼い主と動物が家庭や地域の中で、健やかで安全に穏やかに暮らせる姿が当たり前になってほしいです」。正解か不正解か決められない命の問題。それに正面から向き合い、人と動物が困難なく幸せに暮らす社会づくりを二人はめざしています。

備えよう！ ペットの災害対策

災害は突然起こります。いざというとき、あなたの家族とペットが安全に避難でき、一緒に暮らせるよう、心構えと日頃からのしつけ、避難生活への備えが大切です。

家族みんなの心構えと備え

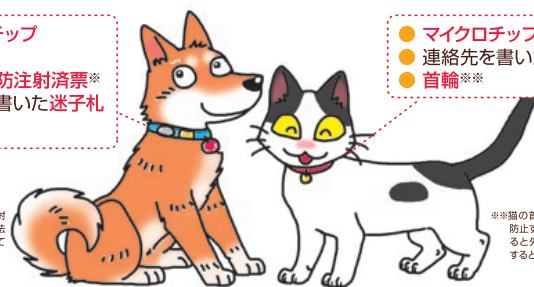
家族で話し合い

- ・ 家族間の連絡方法、集合場所
- ・ 非常持ち出し袋等備蓄品の保管場所と中身の確認
- ・ 飼っているペットを、どう守り、避難させるか
- ・ 飼い主が留守中の災害の時の対処方法などを家族で話し合い、いざというときに備えておきましょう。

所有明示 災害はいつ起こるか分かりません。常に首輪などをつけておきましょう。

- マイクロチップ
- 鑑札と狂犬病予防注射済票*
- 連絡先を書いた迷子札
- 首輪

*犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務づけられています。



**猫の首輪は引っかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプを使用すると良いでしょう。

鳥取県生活環境部くらしの安心局 くらしの安心推進課ホームページより一部抜粋

問合せ先

認定NPO法人
人と動物の共生センター鳥取支部

〒689-1425 鳥取県八頭郡智頭町福原 19 番地
TEL 080-9575-4908

11/5 から
募集中!



ホームページ



クラウドファンディング



インスタグラム